

全国的に、SNS等のメディアトラブルが増加し続けています。情報を正しく安全に利用できる児童生徒の育成を目的として、今年度も県内14の小中学校が「次世代のためのメディアリテラシー育成事業」の実践校に指定され、域内では、南会津町立伊南小学校と南会津町立荒海中学校が情報モラル教育についての実践を重ねています。

～荒海中学校 2年生の実践「学級活動」～ 7/18



「SNSで気持ちよくコミュニケーションをとるために大切なことは？」というテーマで、送られてきたメール文の受け止め方のちがいについて考えました。

LINEみらい財団の情報モラル教材「楽しいコミュニケーションを考えよう！リスクの見積り編」を利用し、カードに書かれたラインのグループトークの内容を読み、この先の会話の展開や自分ならどう返信するかを考え、グループごとに感じたことを話し合いました。

授業を通して子供たちは、表情や声のトーンが分からない文字情報だけでは、送り手の気持ちを判断するのが難しく、全く同じ文面を見ても受け止め方がちがうことを実感しました。これを踏まえて、子供たちは、SNSは不完全なコミュニケーションツールであることを自覚し、受け取る相手の姿を思い描きながら送信することの大切さを改めて確認することができました。

～伊南小学校 3・4年生の実践「学級活動」～ 9/11

「友達が嫌がることをしてしまったことがある」という経験のある児童が多い実態を踏まえ、「自分と相手とのちがいについて考えよう」というテーマで、相手の行為の受け止め方のちがいについて考えました。

LINEみらい財団の情報モラル教材「GIGAワークブック」を応用し、授業は、①声をかけても返事をしてくれない、②なかなか会話が終わらない、③自分がいないところで自分の話をされる、④自分が話をしているときによそを向いている、⑤タブレットで勝手に写真を撮られる、の5つのカードを「じぶんがされたいやな順にならべる」活動からスタートしました。カードの並び順が一人一人ちがっていることから、子供たちは「自分がされて嫌なことは相手にもしない」と、「『(自分と同じで)相手も大丈夫』と思い込んで、知らないうちに相手の嫌がることをしてしまうかもしれない」ということに気が付きました。SNS等のいわゆる「炎上」の大きな要因として、「リスクを想像する力の欠如」が指摘されています。その言動をとることによるリスクを見積もることの大切さについて学ぶ貴重な機会になりました。





「江戸幕府がキリスト教を禁止した理由」について、それぞれがタブレットで調べ、集めた情報の有用性について話し合いました。子供たちはそれぞれの情報の出典等を確認することによって、静岡大学の塩田真吾先生が提唱する「だ・い・ふく」を検証しました。「誰が言っているの？(だ)」「いつ言ったの？(い)」「複数の情報を確かめたか？(ふく)」この3つを確かめることが、デマやフェイクニュースを避け、より正確な情報を得ることにつながります。インター

ネット上には、有用性の低い情報や偽の情報もたくさん公開されています。授業の中で子供たちは、情報を鵜呑みにせず、分析することで信頼性を確かめる「クリティカルシンキング」の大切さを学びました。「検索」が日常となった今、特定の教科だけでなく、あらゆる教科で情報の真偽を見極める力を鍛えていくことが大切です。

導入での「同じアプリを開いても、人によって画面に表示される内容がちがうのはなぜか」という教師の問いかけによって、子供たちは「手元に集まる情報はその人の嗜好に合わせて偏っていて、便利な反面、視野が狭まる危険性がある」ことに気付きました。

これを踏まえて、LINEみらい財団の情報モラル教材「情報防災訓練（情報収集編）」を利用し、自分の住んでいる街に大型の台風が近づいているという想定で、まず「どのSNS情報を選び、どう行動するか」ということを考えました。その後、グループやクラス全体で話し合う中で、情報の発信元や発信時刻など、自分なりの基準をもって情報の信頼性を比較することの大切さが明らかになっていきました。情報の信頼性を確かめる今回のような経験の積み重ねは、災害等の緊急時に「この情報はおかしい」と違和感を抱き、危険を回避する力の向上にもつながっていきます。



このほかにも、福島県教育委員会のホームページに、令和4年度実践校の只見町立只見小学校・檜枝岐村立檜枝岐中学校の取組や、令和3年度実践校の下郷町立江川小学校・南会津町立田島中学校の取組が紹介されています。

メディアリテラシー事業のアドバイザーである医療創生大学の中尾剛先生からは、「だれもが死ぬまでメディアと付き合っていくことになる」というお話がありました。学校の実態に合わせて、今回紹介した実践や教材を参考にしながら、生涯に渡って情報を正しく安全に利用できる児童生徒の育成に向けた取組の継続をお願いします。

域内の学校においても、SNS等のメディアトラブルが増えてきています。メディアリテラシー事業の会議の中で、他地区の中学校から「『ふくしま情報モラル診断』を実施したことにより子供たちの判断力が高まり、令和5年度はSNSトラブルがゼロになった」という報告がありました。「ふくしま情報モラル診断」は、具体的な事例をもとに、法律やマナーなどの側面から幅広く自身のメディア利用を見直すことのできる15分程度の調査です。生徒指導の一環として、冬休みを迎える前に、ぜひご活用ください。

